

次期情報基盤システムに望むこと

人文社会科学部 大橋 忠宏

ohashi@hirosaki-u.ac.jp

1 はじめに

本稿では、人文社会科学部の部局情報技術責任者やネットワーク技術専門委員の立場から感じていることを中心に本学部での情報基盤システム利用の現状と次期システムに望むことについて、以下にまとめる。

2 人文社会科学部での情報基盤システムの利用と次期システムに望むこと

日々の連絡をはじめとして、さまざまな業務がメールにより通知され、連絡・入力作業などについて情報基盤システムを利用する必要がある。

人文社会科学部でも研究活動や教育活動、管理運営などの業務で情報基盤システムの利用が不可欠である。しかしながら、本学部では、情報インフラや情報機器に関して十分な知識や技能を有する職員のみが利用しているわけではなく、業務を行うための情報機器やメール等のアプリの導入や設定等ですら利用者本人が行うのではなく外部の業者が行っている場合が少なくない。また、マニュアル類を参照しながら行う作業が増加しているが、総合情報処理センターから提供されるサービスを含む多くの作業が複雑であったり、マニュアルが整備されていても専門用語が多く利用者にとって平易な記述になっていないことや途中で省略されていて完結していないことがあるため、関係者等による翻訳・解説を必要とする場合がある。

また、本学では、近年、情報セキュリティ対策が強化されており、情報セキュリティポリシーやそれに関連する各種ガイドラインなどへの遵守が求められている。しかし、たとえば、情報セキュリティポリシーに基づくメール利用のガイドライン等によると、HTML メール閲覧や送信は原則禁止されている。しかし、本学部では徹底されていないため、メールを受信しても開けないこともあり、対応に苦慮することがある。さらに、情報セキュリティインシデントが発生した際には、CSIRT から該当者へ連絡されているが、連絡された本人の理解が十分ではなく、部局情報技術責任者が状況を正しく把握することに時間を要することが少なくない。

この他、さまざまなシステム改善や新しいサービスが始まると総合情報処理センターから案内がなされるが、使い方がよくわからなかったり、マニュアルが難しすぎて利用をためらうことや利用をあきらめてしまうことがある。

以前の広報誌 HIROIN の記事で言及されていたが、今後益々情報インフラに関して十分な知識や技能を持っていない利用者の割合は増えていくと考えられるため、このような必ずしも十分な知識や技能を持っていない利用者向けの対応をお願いしたい。

3 おわりに

現在の総合情報処理センターから提供されているサービスについては非常に満足している。さらなるサービス水準の向上のためには、上記で記載したようないろいろな利用者があることを念頭に利用案内やセミナーの開催が行われることを期待したい。